

2008年9月期 第3四半期決算説明資料

2008年8月

フィンテック グローバル株式会社

(東証マザーズ:8789)

<http://www.fgi.co.jp/>

本日ご説明申し上げる業界の動向や分析、今後の見通し、戦略等は、現在入手可能な情報から弊社グループの経営陣が判断したものでありますが、様々な要素により将来の事業を取り巻く環境が大きく変動することも考えられます。

従いまして、将来の戦略及び業績等につきましては本日ご説明申し上げます内容と異なる可能性がございますことをご了承下さい。

株主及び投資家の皆様へ

株主及び投資家の皆様に、当社の現況についてご説明いたします。

昨今の信用収縮による厳しい資金調達環境を背景として、資金繰りに窮している不動産関連会社が散見されます。このような厳しい金融環境に対応すべく、当社においては、債権回収を強化して、計画的、安定的なキャッシュポジションを維持しており、財務資金面における問題はなく、親密な取引銀行とも円満な関係を維持しておりますので、ご安心くださいますようお願い申し上げます。

後記の通り、当第3四半期においては、不動産市況の調整局面に対応するため、案件の精査を徹底し、極力自己資金を使わずリスクの少ない案件を中心に実行した結果、新規のアレンジメント及びプリンシパルファイナンス案件が大きく減少する結果となりました。しかしながら、第4四半期においては複数の見込み案件を予定しており、投資銀行事業については、第3四半期の売上減を補うものと考えております。

また、第1四半期中にストラクチャーを変更をし、SPCへ匿名組合出資を行った大型案件に関しても、債権回収を第3四半期、第4四半期に順次進めております。

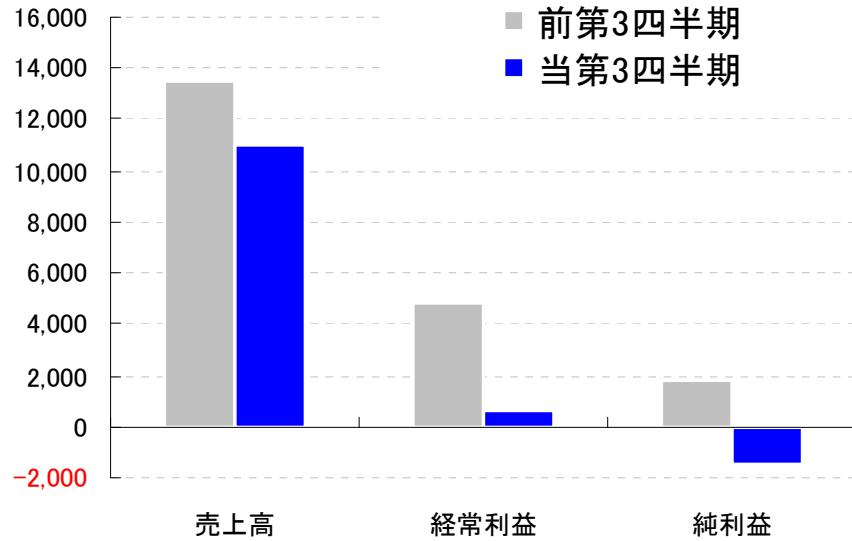
金融環境、不動産市況とも当面厳しい環境が続くことを前提に、各案件の進捗状況を十分に把握し、機動的かつ適切な判断・対応を進めることで、債権管理をより一層強化して参ります。また、同時に収益機会を確実に捉え、企業価値向上に努めて参りますので、株主及び投資家の皆様におかれましては、ご理解の程よろしくようお願い申し上げます。

代表取締役社長 玉井信光

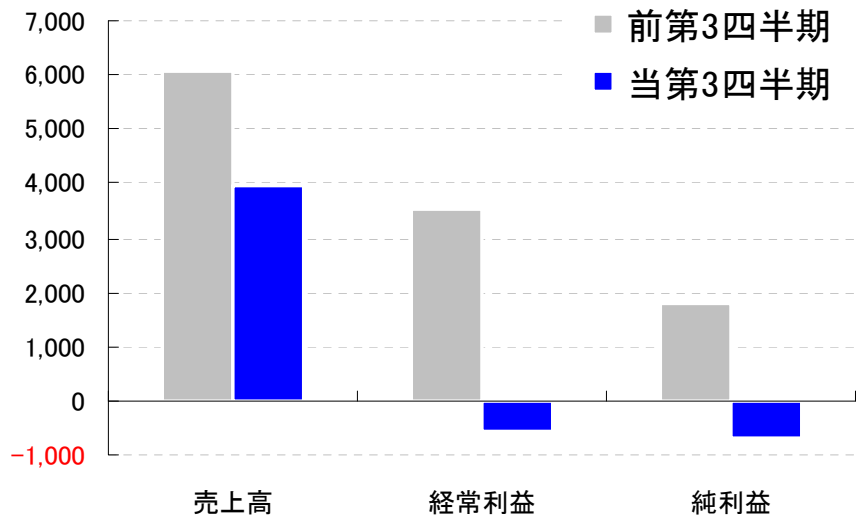
2008年9月期 第3四半期業績の総括

第3四半期までの売上高・利益の状況

連結 (百万円)



個別 (百万円)



連結

(単位:百万円)

2008年9月期		
売上高		増減額
前第3四半期	当第3四半期	-2,426
13,478	11,052	
経常利益		増減額
前第3四半期	当第3四半期	-4,278
4,890	611	
純利益		増減額
前第3四半期	当第3四半期	-3,265
1,752	-1,513	

個別

(単位:百万円)

2008年9月期		
売上高		増減額
前第3四半期	当第3四半期	-2,117
6,079	3,962	
経常利益		増減額
前第3四半期	当第3四半期	-4,079
3,510	-568	
純利益		増減額
前第3四半期	当第3四半期	-2,462
1,791	-670	

2008年9月期 第3四半期の事業の状況

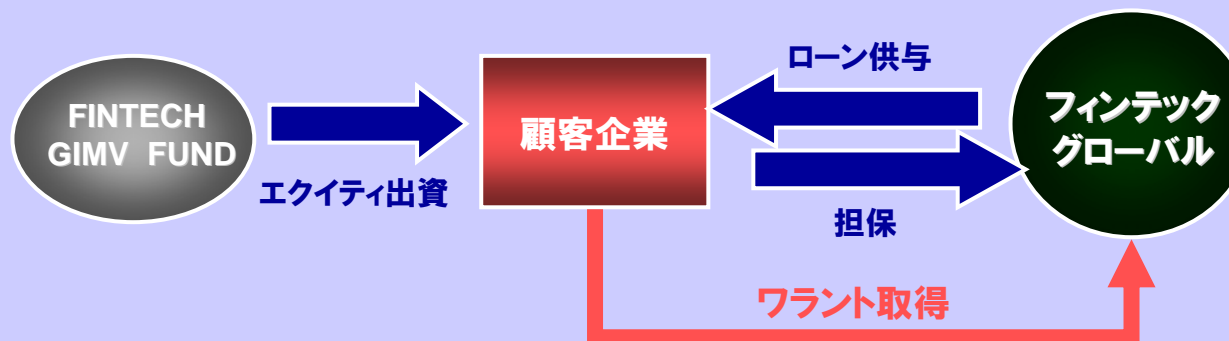
■ 営業環境の悪化及び当社の状況

信用収縮による厳しい資金調達環境を背景として不動産投資額が減少し、投資家の要求利回りが上昇する(不動産価値は減少)など、営業環境は引き続き非常に厳しい状況にあります。当社においても同影響を受け、投資銀行事業の売上においてはアレンジャー業務が大きく落ち込み、結果、売上に占めるプリンシパル業務による金利収入のウェイトが高くなりました。金融機関の不動産関連融資の方針は厳格さを維持すると考えられることから、引き続き厳しい状況は続くと予想しております。

■ 非不動産案件をクローズ

2008年4月に非不動産業務専門部署としてストラクチャードファイナンス営業第三部を新設し、当四半期において、FINTECH GIMV FUND,L.P.(FGF)が出資する会社に対して、当社が動産等を担保にローンを提供、ワラントを当該会社から取得するという新しいスキーム「ワラント付仕組担保型小口ファイナンス」の第一号案件を実行いたしました。

■ 成長企業の資金調達ニーズへの多角的な対応を目指し、顧客企業に積極的なアプローチ



2008年9月期 第3四半期業績に影響を与える事象

■ ① 当社貸付金の貸倒引当金計上 1,000百万円

当社顧客がオリジネーターである大阪市内の不動産開発プロジェクトに関し、建築基準法改正に伴う建築確認の厳格化による計画の遅延などにより、プロジェクト終了までの期間が延びた結果、当初想定していた以上に不動産市場の環境が不透明さを増したことから、当社以外のレンダーなど案件関係者の継続的な参加が見込みにくい状況となりました。このため、当案件にかかる特別目的会社への貸付金1,000百万円について、回収可能性を検討した結果、1,000百万円を貸倒引当金として販売費及び一般管理費に計上いたしました。

■ ② 病院再生案件 訴訟へ

当社は、平成20年8月13日付で、丸紅株式会社及び齋藤栄功に対し、損害賠償請求訴訟を提起しました。当社は本件において別途、刑事告訴も予定しており、引き続き関係当局に全面的に協力して参る所存です。

なお2Qに、当案件への投資について、担保としている上場株式の時価を鑑みて貸倒引当金を1,268百万円計上しておりますが、当四半期末における同株式の時価を鑑み、貸倒引当金を追加計上いたしました。

また、担保株式の処分方法については、引き続き慎重に検討している段階にあり、開示すべき事項がでてきましたら速やかに開示いたします。

(連結)第3四半期における貸倒引当金の追加計上額は上記の①、②に加え、他の引当金の増減も加味して、合計1,237百万円となります。

公会計ビジネスへの取組みをスタート

～株式会社パブリック・マネジメント・コンサルティングの子会社化～

当社は、公会計用ソフトウェアの開発・販売、コンサルティングを行う株式会社パブリック・マネジメント・コンサルティング（PMC）を子会社化（持株比率98.6%）いたしました。当社といたしましては、公会計整備により地方公共団体の資産が時価評価されることで、財政健全化法を意識した資産効率向上へのニーズが生まれてくると考えており、このニーズに対応する証券化・流動化を用いた財務ソリューションのご提供を企図しております。

会社概要

会社名:株式会社パブリック・マネジメント・コンサルティング
代表取締役:松村 俊英
資本金:100百万円
従業員:10名
HP: <http://www.public.ac/>



事業内容

地方公共団体に対するソフトウェアPPP（Principal Publicaccounting Package ＊）の開発・販売及び導入支援。

＊ 複式簿記財務諸表を自動で生成することのできる公会計パッケージソフト（発生主義・複式簿記公会計パッケージ）

公会計制度改革とは・・・

現金主義・単式簿記を特徴とする現在の地方自治体の会計制度に対して、平成20年度決算または平成22年度決算を目処に発生主義・複式簿記などの企業会計の手法を導入し、新たな4種類の財務書類の作成と提示が求められております。同社ではこのような動きに対応するべく、公会計パッケージソフトウェア「PPP2.0」を完成させ、公会計に精通した会計士・税理士・コンサルタントを養成。また、研究会や勉強会、実際のシステム導入などの案件を通じて公会計導入支援を行っております。

2008年9月期 通期業績予想の修正(連結・個別)

2008年9月期 通期業績予想の修正(連結)

連結

(単位:百万円)

	前回 当期 業績予想(A)	今回 当期 業績予想(B)	増減額 (B-A)	2007年 9月期実績
売上高	15,626	14,940	-685	16,914
営業利益	5,024	3,281	-1,743	6,286
経常利益	4,768	2,680	-2,087	5,951
純利益	614	-798	-1,413	1,767

売上

■ FXO社においては、競争激化により3Q前半に一時的に取引高が減少したため、5月下旬に主要取引通貨のスポットレートの引下げなどサービス強化に努めたものの、売上は3Qの計画に対し未達となる。6月より回復基調となり、4Qにおいては当初の計画通りに推移する見込みであるが、3Qの売上減を補うまでには至らない見込み。

利益ベース

- ① 不動産開発プロジェクト案件にかかる貸付金1,000百万円に対し貸倒引当金を計上。
- ② 病院再生案件に関して、担保としている上場株式の第3四半期末における時価を鑑み、貸倒引当金を追加計上。

①及び②に他の貸倒引当金の増減を加味して、当四半期に1,237百万円の貸倒引当金を販売費及び一般管理費に追加計上することから、営業利益・経常利益・当期純利益の減少要因に

2008年9月期 通期業績予想の修正(個別)

個別

(単位:百万円)

	前回 通期 業績予想(A)	今回 通期 業績予想(B)	増減額 (B-A)	2007年 9月期実績
売上高	5,412	5,537	124	7,287
営業利益	1,158	227	-931	4,230
経常利益	1,119	222	-897	3,731
純利益	364	-219	-583	1,806

売上

■ 当社を取り巻く営業環境は、引き続き厳しい状況が続くと予想されるものの、4Qにおいて複数の案件のクローズを予定しており、当初の予想とほぼ同じ売上を見込む。

利益ベース

- ① 不動産開発プロジェクト案件にかかる貸付金1,000百万円に対し貸倒引当金を計上。
- ② 病院再生案件に関して、担保としている上場株式の第3四半期末における時価を鑑み、貸倒引当金を追加計上。

①及び②に他の貸倒引当金の増減を加味して、当四半期に1,232百万円の貸倒引当金を販売費及び一般管理費に追加計上することから、営業利益・経常利益・当期純利益の減少要因に

2008年9月期 第4四半期における取組み

下半期課題

- 信用収縮、不動産価格調整への対応
- ↓
- アレンジメント及びリスクを限定したプリンシパルファイナンスの実行

- 資金拠出者の確保

- 非不動産事業の拡大

- 再保険事業再スタートへ

- 審査体制の再強化
- 債権保全・回収の強化

現在の対応状況

- 中小規模の見込み案件を確実に実行
- リスクの少ないアレンジメントのみの案件や、不動産仲介案件を見込む。プリンシパルファイナンスはリスクを鑑み、少額の案件を実行
- 信用力のあるビジネスパートナーとの関係強化
- 案件参加者のクレジットが弱いケースにおいては信用力のある第三者の信用補完を加えることによりプロジェクト推進力を強化・補強するなど、より高い付加価値を加えてアレンジメントを行う

- 海外投資家を含む新たな資金拠出者を招聘
～ファンド創設に関しては関係者との調整中～

- 見込み案件数の拡大
～FGF(FINTECH GIMV FUND)出資検討案件へのアプローチ、リピート顧客の獲得を企図、有力事業者との協働～

- クレインによる再保険の来期首からの新規引受再開に向け最終調整中

- リスクの洗い出しをより精密に行い、
案件審査をより慎重に行う

營業概況說明

連結 セグメント別業績

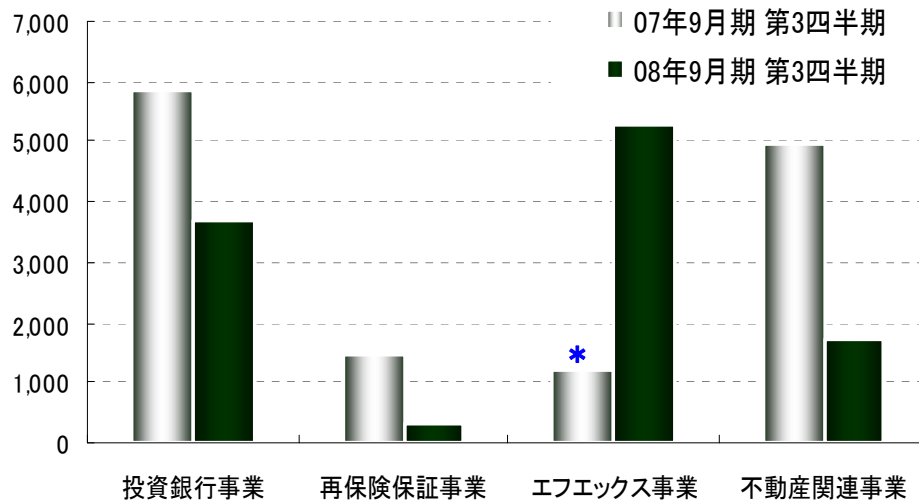
【単位:百万円】

【単位:百万円】	売上高				営業利益		
	07年9月期	08年9月期	差異		07年9月期	08年9月期	差異
	第3四半期	第3四半期			第3四半期	第3四半期	
投資銀行事業	5,874	3,680	-2,194	投資銀行事業	3,521	-855	-4,377
再保険保証事業	1,433	335	-1,098	再保険保証事業	-87	-157	-70
* エフエックス事業	1,221	5,308	4,087	エフエックス事業	467	2,455	1,988
不動産関連事業	4,948	1,728	-3,220	不動産関連事業	1,314	70	-1,243
消去又は全社	-	-	-	消去又は全社	(169)	(267)	-
合計	13,478	11,052	-2,426	合計	5,046	1,245	-3,800

*エフエックス事業に関しては2007年第3四半期より連結に取込んでおり、前期の数値は4～6月の3ヶ月間の数値であります。

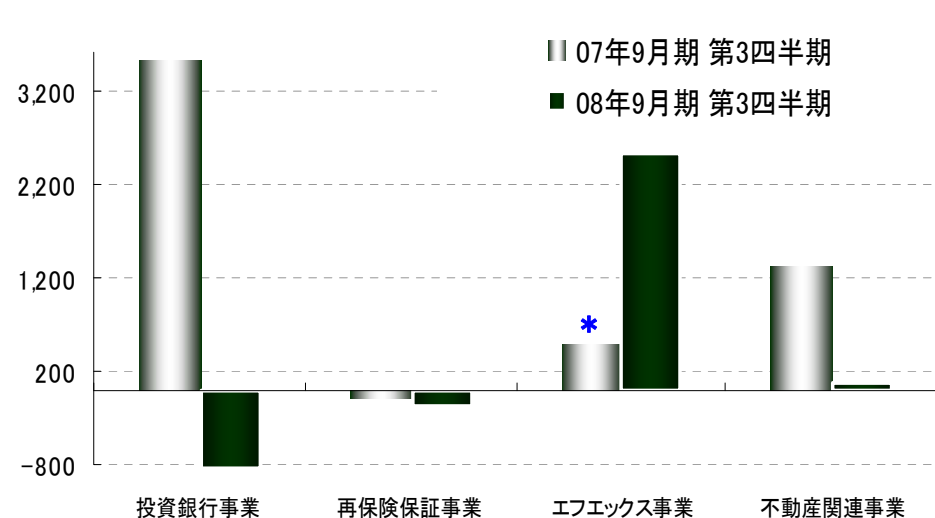
売上高

【単位:百万円】



営業利益

【単位:百万円】



*エフエックス事業に関しては2007年第3四半期より連結に取込んでおり、前期の数値は4～6月の3ヶ月間の数値であります。

2008年9月期 第3四半期 グループ会社業績 各社単体業績連結調整前

(単位:百万円)

Stellar Capital AG	2007年9月期	2008年9月期 第3四半期	2008年9月期	進捗率(%)
	通期実績	実績	前 業績予想	
売上高	1,719	128	142	90.1%
経常利益	293	-306	11	—
当期純利益	317	-306	8	—

エフェックス・オンライン・ ジャパン	2007年4月~9月	2008年9月期 第3四半期	2008年9月期	進捗率(%)
	6ヶ月実績	実績	前 業績予想	
売上高	3,139	5,308	7,928	67.0%
経常利益	2,244	3,536	5,408	65.4%
当期純利益	1,328	2,098	3,200	65.6%

フィンテックグローバル証券	2007年9月期	2008年9月期 第3四半期	2008年9月期	進捗率(%)
	通期実績	実績	前 業績予想	
売上高	112	138	175	78.9%
経常利益	-110	-23	-21	—
当期純利益	-110	-26	-23	—

イントラスト	2007年9月期	2008年9月期 第3四半期	2008年9月期	進捗率(%)
	通期実績	実績	前 業績予想	
売上高	8	187	312	59.9%
経常利益	-126	-18	2	—
当期純利益	-127	-18	2	—

2008年9月期
業績予想
136
-269
-272
2008年9月期
業績予想
7,495
5,041
2,986

→ 修正なし

→ 修正なし

フィンテックリアルエステートは7月22日に解散決議を行っております。

連結業務内容サマリー

■ 投資銀行事業

アレンジャー業務

フィンテック グローバル(当社)

プリンシパルファイナンス業務

フィンテック グローバル(当社)
 ◎フィンテック プリンシパル インベストメント
 ◎FGIプリンシパル

その他投資銀行業務

フィンテック グローバル(当社)
 ◎フィンテック グローバル証券
 ◎FINTECH GIMV FUND,L.P.(FGF)

■ 不動産関連事業

不動産開発・売買・賃貸・仲介業務

フィンテック グローバル(当社)

■ 再保険保証事業

保証供与

◎Stellar Capital AG
 フィンテック グローバル(当社)

再保険引受

◎Crane Reinsurance Limited

滞納家賃保証

◎イントラスト

売掛債権保証

◎リライアブルファクターズ

■ エフェックス事業

外国為替証拠金取引業務

◎エフェックス・オンライン・ジャパン

公会計用ソフト開発販売・コンサル

◎パブリック・マネジメント・コンサルティング

◎は連結子会社

2-1.投資銀行事業/アレンジャー業務の営業概況

アレンジメント

資産流動化等のストラクチャードファイナンス案件を実行するための「仕組み」の策定、投資家等プロジェクト参加者の招聘および意見調整、法的・会計的・税務的な視点からの検証等、さまざまな案件を具体化し組成します。

<当社アレンジメント案件組成総額推移>

(単位: 百万円)

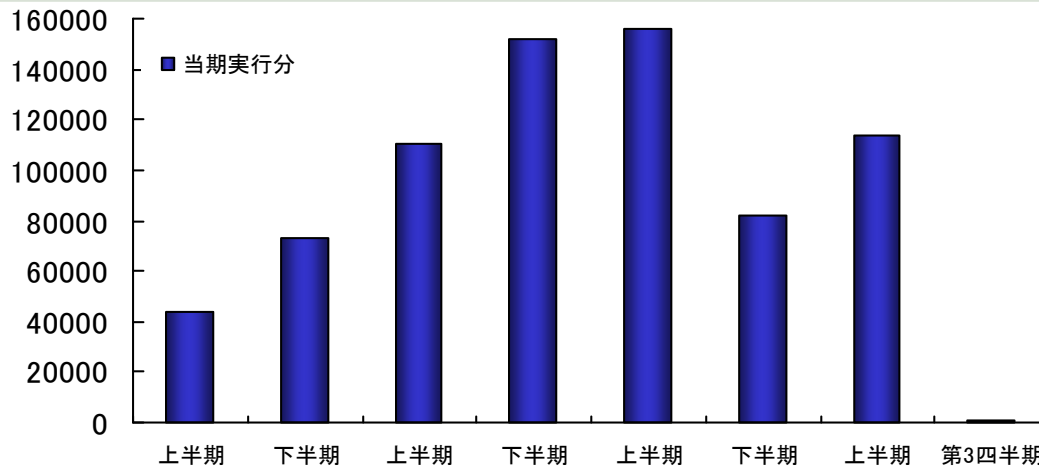
	05年9月期		06年9月期		07年9月期		08年9月期	
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	第3四半期(4~6月)
当期実行分	43,699	73,483	110,445	151,806	155,732	81,789	114,095	600
売上高(アレンジャー業務:個別)	840	1,310	1,682	2,996	2,941	1,016	1,934	8

● アレンジメント案件組成総額とは、当社がアレンジした金融プロダクトに対する金融機関、投資家等からの投融资総額(調達資金総額)です。アレンジメント案件組成総額には信用補完付アレンジメント案件の組成実行高も含まれております。

(参考) アレンジメントクロージング案件数*	14件	30件	29件	27件	29件	17件	16件(7)	1件(5)
新規顧客獲得数	14件	6件	1件	6件	6件	6件	8件	3件

*アレンジメントクロージング案件数: 括弧書きは共同アレンジ案件、プリンシパルファイナンスのみの案件、その他の案件の合計数であります。

●新規顧客獲得数: 当該期間中に取引を開始した顧客。クロージング案件数(括弧書きの数を含む)のうちの新規顧客数であります。



単位: 百万円

05年9月期

06年9月期

07年9月期

08年9月期

アレンジメント組成実行額は、当第3四半期(4~6月)において、600百万円となりました。

不動産に関するアレンジャー業務は、不動産市況の調整を背景に、案件の組成難易度が上昇しました。また、当社によるプリンシパルファイナンスもより一層厳格に審査を行ったことから、アレンジメント組成総額、件数ともに大きく落ち込む結果となりました。

2-2. 投資銀行事業/信用補完付アレンジメントの営業概況

当社の「信用補完」は証券化や各種ストラクチャードファイナンスの仕組み上に存在するファイナンスリスクを「保証」などにより保証会社や保険会社に引き受けさせ、仕組みの安定化を図るものです。この信用補完を案件組成に取り入れることにより、仕組みの安定化が図れ、結果として証券化コストが安価になるケースや今まで証券化不能であったものが組成可能となるケースもあります。スイスに設立したステラキャピタルを活用し、信用補完をつけることで金融機関から投融資が可能な形にアレンジを行います。

<当社信用補完付アレンジ実績>

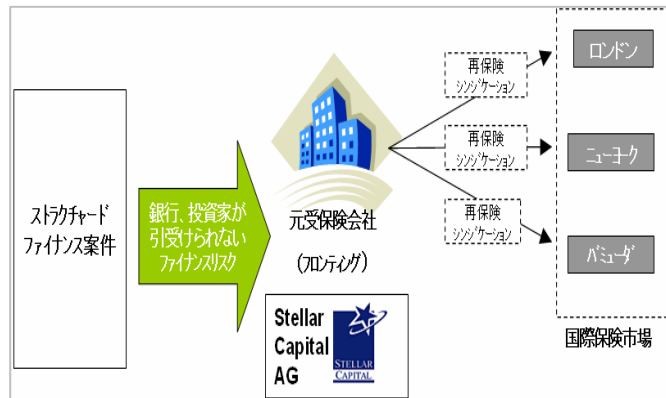
(単位: 百万円)

	05年9月期	06年9月期	07年9月期	08年9月期	
				上半期	第3四半期
売上高	0	939	607	109	0
売上原価	2	32	13	2	0
売上総利益	-2	906	593	106	0
案件数(件)	0	8	4	1	0

当四半期において信用補完付アレンジメントについては、ステラキャピタルAGの保証及び当社保証を要する案件はありませんでした。

従来の信用補完業務のプロセス:

- ①ストラクチャー(仕組み)上のリスクの切り出し
- ②切り出されたリスクの元受保険会社(フロンティング)の策定
- ③(ケースによっては)最終リスク引受者である再保険会社へのアプローチ

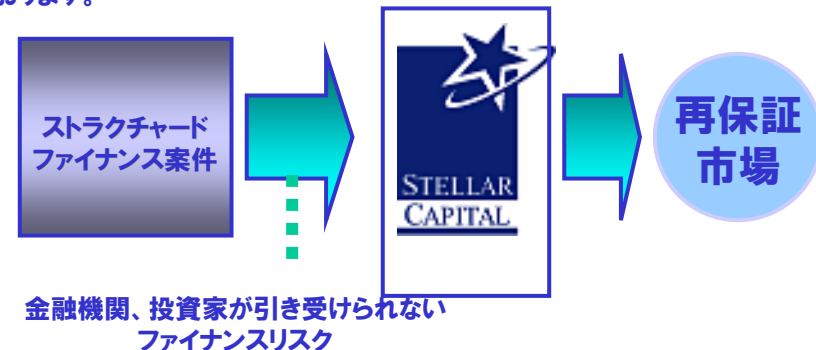


現状

現状の信用補完業務のプロセス:

再保険会社へのアプローチは非常な労力と準備作業を必要とします。一般的な信用補完の場合、国際三大保険市場に存在する再保険会社のうち20社~50社程度が分散してリスクを引受けるため、シンジケーションに多大な時間がかかります。

当社では、信用補完業務の効率化、利益率の向上を図るため、2006年3月にStellar Capital AGを設立し、同社による保証引受を開始しております。

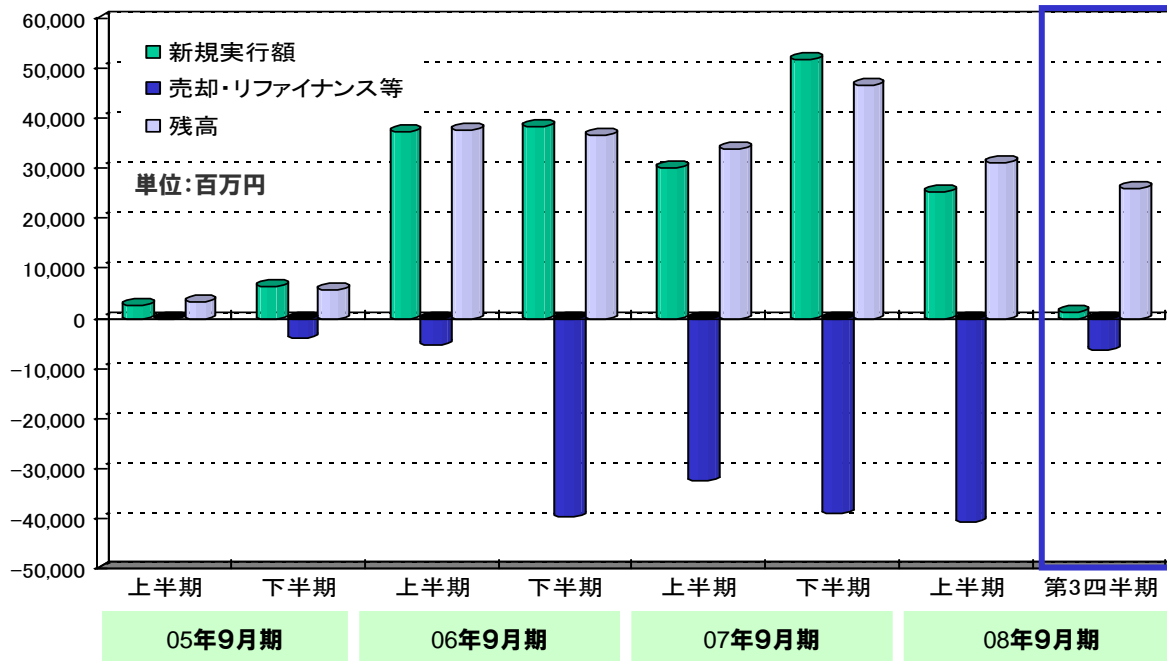


2-3.投資銀行事業/プリンシパルファイナンス業務の営業概況

当社自身が資金供給者(投資またはレンダー)として、投融資(匿名組合出資・シニア・メザニンローン、コーポレートローン)を行います。

<当社投融資実行残高>

単体	05年9月期		06年9月期		07年9月期		08年9月期		(単位: 百万円)
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	第3四半期 (4~6月)	
新規実行額	2,693	6,526	37,290	38,380	30,060	51,623	25,278	1,196	08年9月期 第3四半期 子会社への 貸付残高
売却・リファイナンス・ アービトラージ	39	4,074	5,344	39,567	32,579	39,020	40,685	6,390	
残高	3,295	5,747	37,693	36,506	33,987	46,590	31,183	* 25,989	17,521 百万円
売上高(個別)	28	228	860	1,777	1,538	1,635	1,437	441	



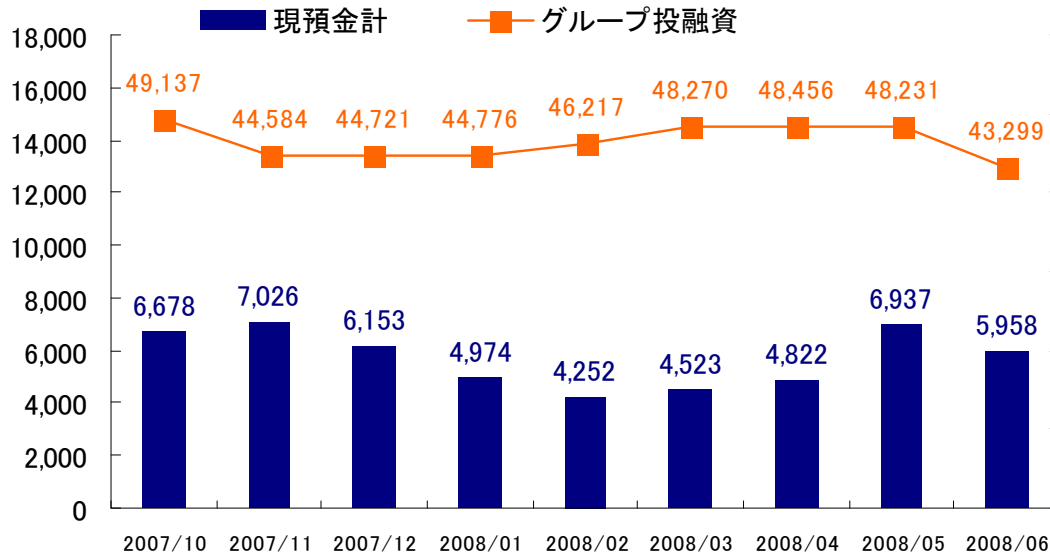
* 投融資残高は、単体BSの営業投資有価証券+営業貸付金の合計額となります。

今期より、リスク管理の一環として投融資基準を大幅に厳格化し、案件の選別においても厳格に行っております。また、一部の大型案件のストラクチャーの変更等により、子会社を通じての投融資が増加しております。

参考資料 現預金及び投融資残高の推移(投融資を行うグループ会社の合計)

(現預金計/単位:百万円)

(投融資額/ 単位:百万円)

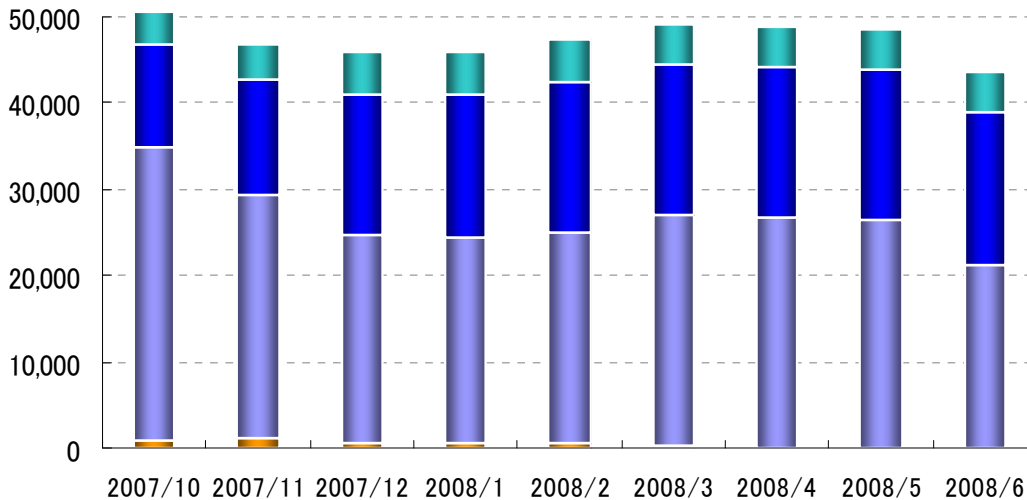


現預金:
FGIグループでプリンシパルファイナンスを行っている会社の現預金

グループ投融資:
FGIグループのプリンシパル残高 - 子会社の現預金

*当社グループの投融資実態を示すため、単体の投融資額(単体BSの営業貸付金と営業投資有価証券の合計額)に、子会社を通じた投融資額(単体BSの投融資を行う子会社への短期貸付金から当該子会社の現預金を減じた額)を加えた金額をFGIグループの投融資額としております。

■ 子会社の現預金 ■ 単体営業貸付金 (投融資額/ 単位:百万円)
■ 子会社への短期貸付金 ■ 単体営業投資有価証券



*グループ投融資残高の内訳

} 単体営業投資有価証券
} 子会社貸付
} 単体営業貸付金

単体における投融資残高は減少傾向であるものの、FGIグループとしての総投融資残高は、年間想定平均投融資残高である350億円までは減少せず、当四半期末においては432億円程度を維持する結果となりました。

(子会社: FRE, FGIプリンシパル)

参考資料 プリンシパルファイナンスのポートフォリオ(連結)

(単位:百万円、件)

種別	※ ~6ヶ月		7ヶ月~12ヶ月		13ヶ月~18ヶ月		19ヶ月~		合計	
	金額 (シェア)	件数	金額 (シェア)	件数	金額 (シェア)	件数	金額 (シェア)	件数	金額 (シェア)	件数
建築確認前ブリッジ メザニン	4,145 (19.2%)	5	1,500 (7.0%)	3	0 (0.0%)	0	0 (0.0%)	0	5,645 (26.2%)	8
建築確認前ブリッジ シニア	1,990 (9.2%)	1	0 (0.0%)	0	0 (0.0%)	0	0 (0.0%)	0	1,990 (9.2%)	1
開発型メザニン	3,160 (14.7%)	4	0 (0.0%)	0	410 (1.9%)	1	0 (0.0%)	0	3,570 (16.6%)	5
開発型シニア	3,700 (17.2%)	1	0 (0.0%)	0	0 (0.0%)	0	0 (0.0%)	0	3,700 (17.2%)	1
運用型メザニン	350 (1.6%)	0	1,212 (5.6%)	3	320 (1.5%)	1	875 (4.1%)	0	2,757 (12.8%)	4
運用型シニア	0 (0.0%)	0	0 (0.0%)	0	0 (0.0%)	0	600 (2.8%)	2	600 (2.8%)	2
その他 (非不動産及びコーポレートローン) ☆	3,018 (14.0%)	4	100 (0.5%)	1	0 (0.0%)	0	176 (0.8%)	1	3,294 (15.3%)	6
合計	16,363 (75.9%)	15	2,812 (13.0%)	7	730 (3.4%)	2	1,651 (7.7%)	3	21,556 (100.0%)	27

プリンシパルファイナンスのうち営業貸付金のみポートフォリオとなります。
営業投資有価証券、たな卸資産の一部は含んでおりません。

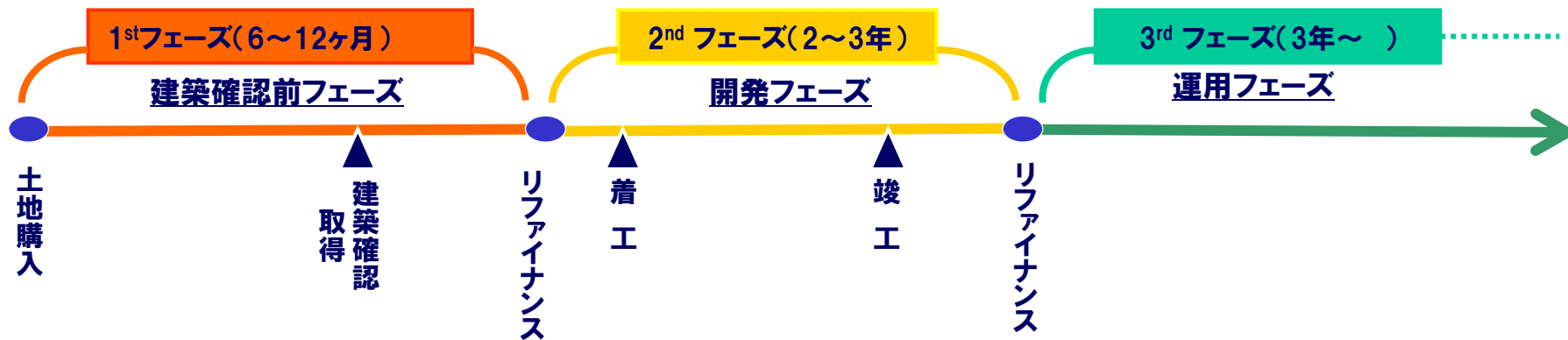
88.9%

☆ 子会社SP&W・アスクレビオス投資事業組合4号からの資金拠出22億円の出資分を含んでおります。

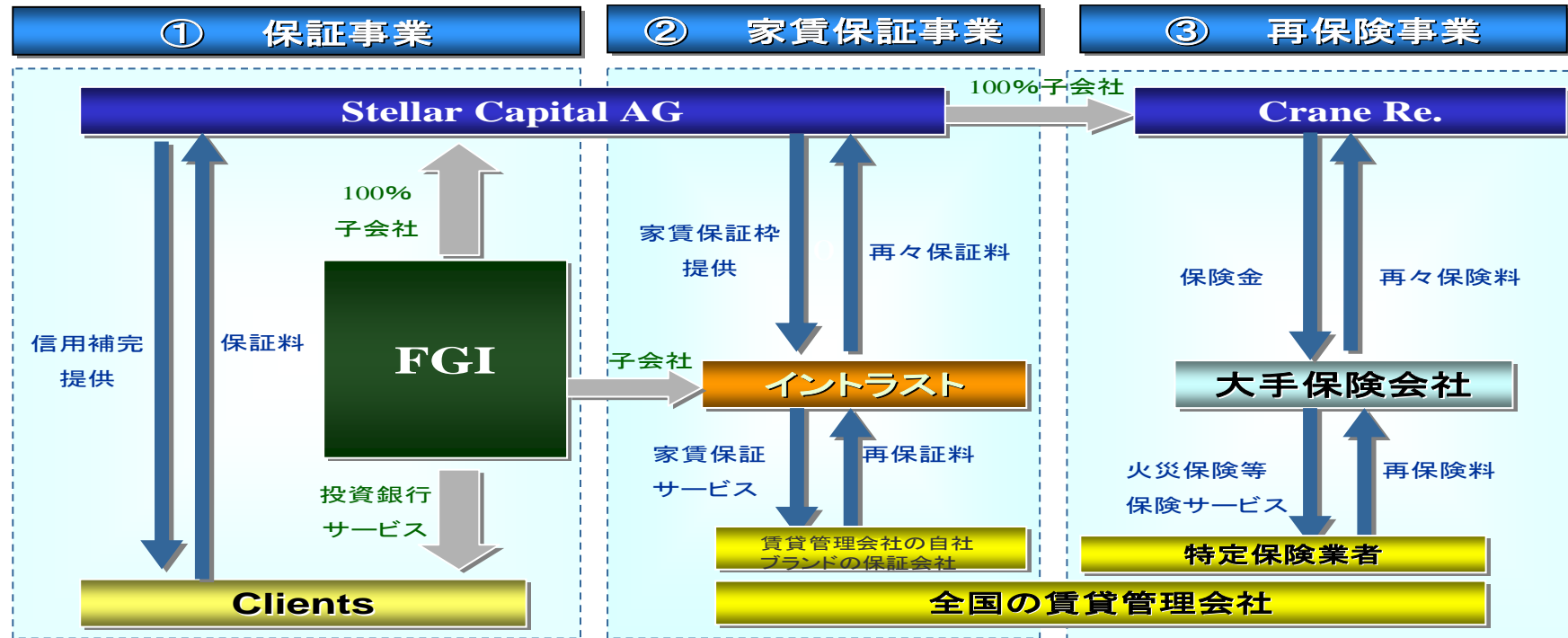
※2008年6月30日から返済期日までの期間であります。

当社の現在のプリンシパルファイナンスポートフォリオの特徴として、返済期日までの期間が短いローン(12ヶ月以内のもの)が、全体の約88.9%を占めております。
当社としましては、不動産マーケットの調整局面にあることから、今後、絶対的に不足すると考えられるシニアローンに対するプリンシパルファイナンスの実行に注力していくと共に、貸付期間が1年を超える開発型メザニン・運用型メザニン及びその他(非不動産)へのファイナンスに関して、貸付債権を売却することで資金の回転率を高め、新たな収益機会の獲得を目指していく所存です。

<不動産開発及び運用についての流れ>



3.再保険保証事業の営業概況



(単位:百万円)

	2007年 9月期	2008年 9月期
	通期	第3四半期
売上高	1,720	335

Stellar Capital/Crane Re:

第3四半期においては、Stellar Capitalによる保証を要する信用補完案件が組成されなかったため、既存案件の保証に対する期間収益のみ売上計上を行いました。

Crane Reは新スキームでの再保険引受開始に向け、最終調整を行っており、来期首より本格的に収益貢献していく見込みです。

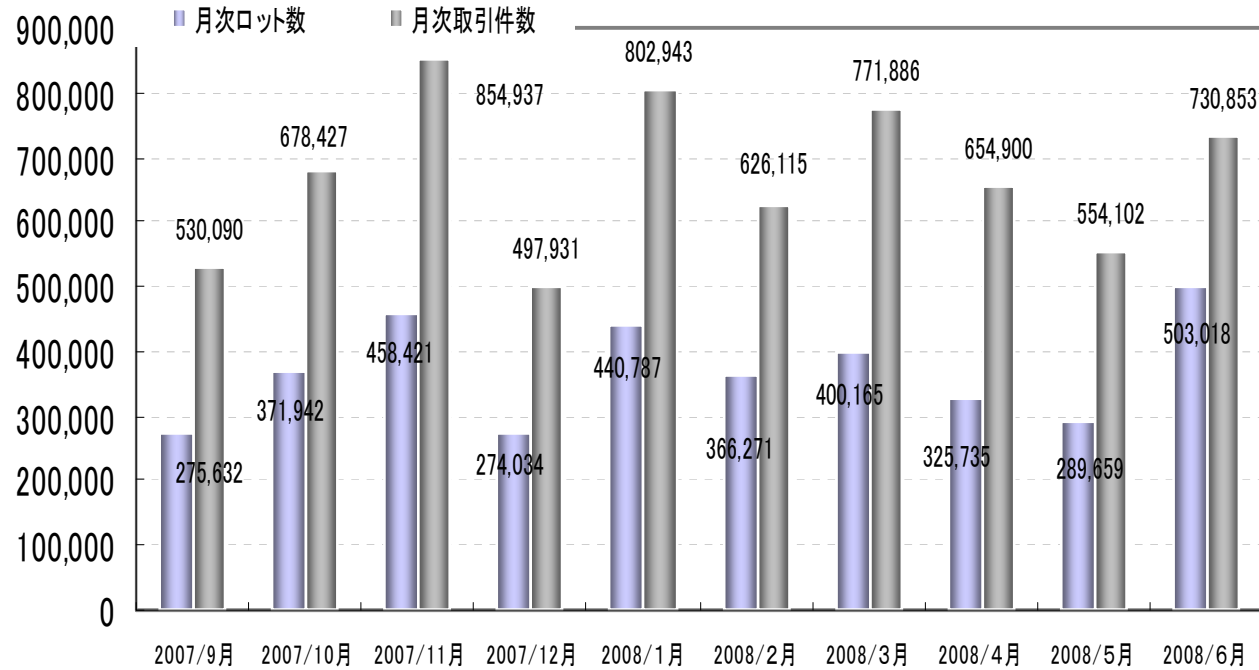
また、資産運用に関しては、ポートフォリオの変更等を実施した結果、一定の評価益を計上しております。

イントラスト:

2008年3月の単月黒字化達成後も、保証料収入は順調に拡大しております。

4. エフエックス事業の営業概況

エフエックス事業は、平成19年1月から3月にかけて株式取得を行ない、前期より連結決算に収益を取り込んでいる、エフエックス・オンライン・ジャパン株式会社(FXO社)が行う事業であります。同社の事業領域でありますインターネットを使った外国為替証拠金取引事業は、競争が激しいものの、市場規模は急拡大しております。



3月に1ドル95円台をつけて以降、当四半期(4月から6月)はゆるやかに円安が進行し、相場としては、全体的にやや落ち着いた展開となりました。

業者間の競争が激化する中、5月27日に主要通貨ペアのうちUSDJPYをはじめとした7種類の通貨ペアのスプレッド引下げを行いました。その結果、6月の月次ロット数は今期最高の値となりました。

1ロットとは...
各通貨ペア10万通貨単位
上記件数はすべての取引を含みます。

(単位:百万円)	2007年9月期 (下半期6ヶ月実績)	2008年9月期 第3四半期
売上高	3,139	5,308

5.不動産関連事業の営業概況

不動産関連事業では、主に当社グループのフィンテックリアルエステート及び連結の範囲に含めているSPCの不動産の仲介・売買・賃貸収益等、当社開発型証券化のアレンジメント過程において発生する収益機会を取り込んでおります。

(単位:百万円)	2007年9月期	2008年9月期	
		第3四半期	累計
不動産関連事業売上高	5,069	1,728	
内 不動産売買売上	4,436	1,620	
内 賃料収入	127	98	
内 仲介手数料	505	9	

第1四半期において子会社において1件の不動産売却が発生し、約16億円を売上計上しております。また、その他連結しているSPCの保有する物件からの賃料収入などを計上しております。

フィンテックリアルエステートの解散について

フィンテックリアルエステートは、投資銀行事業を行う中で派生的に発生してくる不動産の売買・仲介等の収益機会を取り込むことを目的として設立し、同時に別会社で同事業を行うことで本業のアレンジメントと区別して業績開示が行えることを企図しておりました。しかしながら、不動産関連事業については事業の種類別セグメントで業績開示を行うようになったこと、及び当社においても宅地建物取引業免許を取得したことにより不動産関連事業を行なえるようになったことから、同社の事業を当社に集約し、経営の効率化を図るべく同社を解散いたしました。なお、同社の行っている事業に関しては引き続き当社で行って参ります。

第3四半期決算 財務ハイライト

1. 連結 貸借対照表

資産の部 (単位: 千円、%)

	07年9月期		08年9月期第3四半期	
流動資産	82,248,886	90.6	98,206,485	93.5
現金及び預金	15,263,735		11,473,840	
預託金	10,214,673		11,528,706	
売掛金	5,962		72,280	
有価証券	—		4,887,956	
営業投資有価証券	4,571,706		5,590,354	1
たな卸資産	5,864,266		38,948,023	
営業貸付金	40,454,941		21,555,400	
その他	6,025,010	2	6,846,909	
貸倒引当金	△ 151,409		△ 2,696,985	
固定資産	8,491,587	9.4	6,842,396	6.5
有形固定資産	267,825	0.3	518,931	0.5
無形固定資産	6,666,727	7.4	5,821,428	5.5
投資その他の資産	1,557,035	1.7	502,037	0.5
資産合計	90,740,474	100.0	105,048,881	100.0

負債の部 (単位: 千円、%)

	07年9月期		08年9月期第3四半期	
流動負債	35,350,755	38.9	54,313,398	51.7
短期借入金	14,351,700		35,721,391	
顧客預り金	9,992,733		10,767,144	
一年以内返済予定長期借入金	7,272,056		5,621,620	
その他	3,734,263		2,203,240	
固定負債	28,198,620	31.1	24,376,078	23.2
新株予約権付社債	22,170,000		22,170,000	
長期借入金	4,532,140		1,170,110	
その他	1,496,480		1,035,968	
負債合計	63,549,376	70.0	78,689,477	74.9

純資産の部 (単位: 千円、%)

	07年9月期		08年9月期第3四半期	
株主資本	25,027,828	27.6	22,502,616	21.4
資本金	10,736,448	11.8	10,764,317	10.2
資本剰余金	10,351,900	11.4	10,351,900	9.9
利益剰余金	3,939,480	4.4	1,386,398	1.3
評価・換算差額等	△ 17,163	△ 0.0	△ 36,425	△ 0.0
新株予約権	4,974	0.0	14,475	0.0
少数株主持分	2,175,458	2.4	3,878,737	3.7
純資産合計	27,191,098	30.0	26,359,404	25.1

負債純資産合計	90,740,474	100.0	105,048,881	100.0
----------------	------------	-------	-------------	-------

1 たな卸資産・営業貸付金・短期借入金：大型案件のストラクチャー変更に伴い、不動産を所有しているSPCに匿名組合出資を行い連結したことから、営業貸付金が減少、販売用不動産を含むたな卸資産、及び短期借入金が大幅に増加

2 貸倒引当金（累計2,696百万円）：病院再生案件にかかる引当金計上、大阪市内の不動産開発プロジェクト案件にかかるSPCへの貸付金の貸倒引当金計上等により合計1,237百万円追加計上

3 無形固定資産：FXOのれん等

4 少数株主持分：FXO社 3,237百万円、FINTECH GIMV FUND 573百万円

2. 連結 損益計算書

(単位: 千円、%)

	07年9月期第3四半期		08年9月期第3四半期		07年9月期	
売上高	13,478,385	100.0	11,052,185	100.0	16,914,147	100.0
売上原価	5,077,000	37.7	1,715,681	15.5	5,481,682	32.4
売上総利益	8,401,385	62.3	9,336,504	84.5	11,432,464	67.6
販売費及び一般管理費	3,354,834	24.9	8,090,921	73.2	5,145,487	30.4
営業利益	5,046,551	37.4	1,245,582	11.3	6,286,977	37.2
営業外収益	384,433	2.9	151,259	1.4	308,516	1.8
営業外費用	540,334	4.0	784,953	7.1	643,822	3.8
経常利益	4,890,649	36.3	611,887	5.5	5,951,671	35.2
特別利益	11,720	0.1	2,104	0.0	11,720	0.1
特別損失	108,461	0.8	235,484	2.1	146,183	0.9
税金等調整前第3四半期(当期)純利益	4,793,908	35.6	297,455	2.7	5,817,208	34.4
法人税、住民税及び事業税	1,957,589	14.5	778,471	7.0	2,537,111	15.0
少数株主利益	1,083,694	8.0	1,032,306	9.3	1,512,311	8.9
第3四半期(当期)純利益	1,752,623	13.0	△ 1,513,322	△ 13.7	1,767,784	10.5

1 売上高 11,052百万円

売上に関してはエフェックス事業の売上が競争激化により一時的に取引量が伸び悩んだものの、その他子会社はほぼ順調に推移しました。しかしながらFGI単体の不振を受け、11,052百万円(前期比△2,426百万円)となりました。

2 販管費 8,090百万円

貸倒引当金に関してはBS参照

3 法人税、住民税及び事業税 778百万円

税率が標準税率より高い理由:

のれん償却費を損金算入できないこと、赤字の子会社がありトータルで見ると税負担率が高いように見えることによるもの。

損金不算入: のれん償却費 約450百万円、赤字子会社分 約200百万円

4 少数株主利益 1,032百万円

FXOの当社持分が45%であるため、同社の純利益の55%を少数株主持分として控除

3.個別 貸借対照表

資産の部 (単位: 千円、%)

	07年9月期		08年9月期第3四半期	
流動資産	57,380,752	73.2	48,212,157	70.2
現金及び預金	6,836,785		5,747,759	
売掛金	6,195		1,272	
営業投資有価証券	3,986,713		4,651,700	
営業貸付金	42,603,000		21,337,500	
短期貸付金	3,562,000		17,521,000	
その他	548,752		1,670,268	
貸倒引当金	△ 162,695		△ 2,717,344	
固定資産	20,982,185	26.8	20,509,889	29.8
有形固定資産	183,312	0.3	246,657	0.4
無形固定資産	12,425	0.0	25,366	0.0
投資その他の資産	20,786,448	26.5	20,237,865	29.4
資産合計	78,362,938	100.0	68,722,046	100.0

1 プリンシパルファイナンス 投融資額 P18参照
(営業投資有価証券+営業貸付金)
総額: 25,989百万円

2 短期貸付金の増加:
子会社に対する貸付が増加 P19参照

3 貸倒引当金(累計2,717百万円): 病院再生案件にかかる引当金計上、
大阪市内の不動産開発プロジェクト案件にかかるSPCへの貸付金の
貸倒引当金計上等により合計1,232百万円追加計上

4 投資その他資産: 子会社出資金
ステラキャピタル: 約100億円、FXO: 約82億円

負債の部 (単位: 千円、%)

	07年9月期		08年9月期第3四半期	
流動負債	27,287,380	34.8	22,120,718	32.2
短期借入金	18,779,000		15,817,919	
一年以内返済予定長期借入金	7,272,056		5,621,620	
その他	1,236,324		681,178	
固定負債	26,125,321	33.4	23,373,469	34.0
新株予約権付社債	22,170,000		22,170,000	
長期借入金	3,932,140		1,170,110	
その他	23,181		33,359	
負債合計	53,412,701	68.2	45,494,187	66.2

純資産の部 (単位: 千円、%)

	07年9月期		08年9月期第3四半期	
株主資本	24,962,424	31.9	23,218,275	33.8
資本金	10,736,448	13.7	10,764,317	15.7
資本剰余金	10,351,900	13.2	10,351,900	15.1
利益剰余金	3,874,076	5.0	2,102,057	3.1
評価・換算差額等	△ 17,163	△0.1	△ 4,891	0.0
新株予約権	4,974	0.0	14,475	0.0
純資産合計	24,950,236	31.8	23,227,859	33.8

負債純資産合計	78,362,938	100.0	68,722,046	100.0
----------------	------------	-------	------------	-------

4. 個別 損益計算書

(単位: 千円、%)

	07年9月期第3四半期		08年9月期第3四半期		07年9月期		
売上高	6,079,714	100.0	1	3,962,642	100.0	7,287,612	100.0
売上原価	506,012	8.3		285,348	7.2	740,799	10.2
売上総利益	5,573,702	91.7	2	3,677,294	92.8	6,546,812	89.8
販売費及び一般管理費	1,635,912	26.9		4,304,742	108.6	2,316,585	31.8
営業利益	3,937,789	64.8		△ 627,448	△ 15.8	4,230,227	58.0
営業外収益	71,598	1.2		336,091	8.5	116,134	1.6
営業外費用	498,954	8.2		277,343	7.0	615,256	8.4
経常利益	3,510,434	57.7		△ 568,700	△ 14.4	3,731,105	51.2
特別損失	464,376	7.6	3	530,729	13.4	627,125	8.6
税引前第3四半期(当期)純利益	3,046,058	50.1		△ 1,099,430	△ 27.7	3,103,979	42.6
法人税、住民税及び事業税	1,254,713	20.6		△ 428,648	△ 10.8	1,297,356	17.8
第3四半期(当期)純利益	1,791,345	29.5		△ 670,781	△ 16.9	1,806,623	24.8

1 売上高 3,962百万円

不動産開発プロジェクト案件への金融機関のノンリコース・ローンが減少し、それに起因して、当社が行うファイナンスアレンジは難易度が上昇しました。
投資銀行事業の売上においてはアレンジャー業務が大きく落ち込み、結果、売上に占めるプリンシパル業務による金利収入のウエイトが高くなりました。

2 販管費 4,304百万円

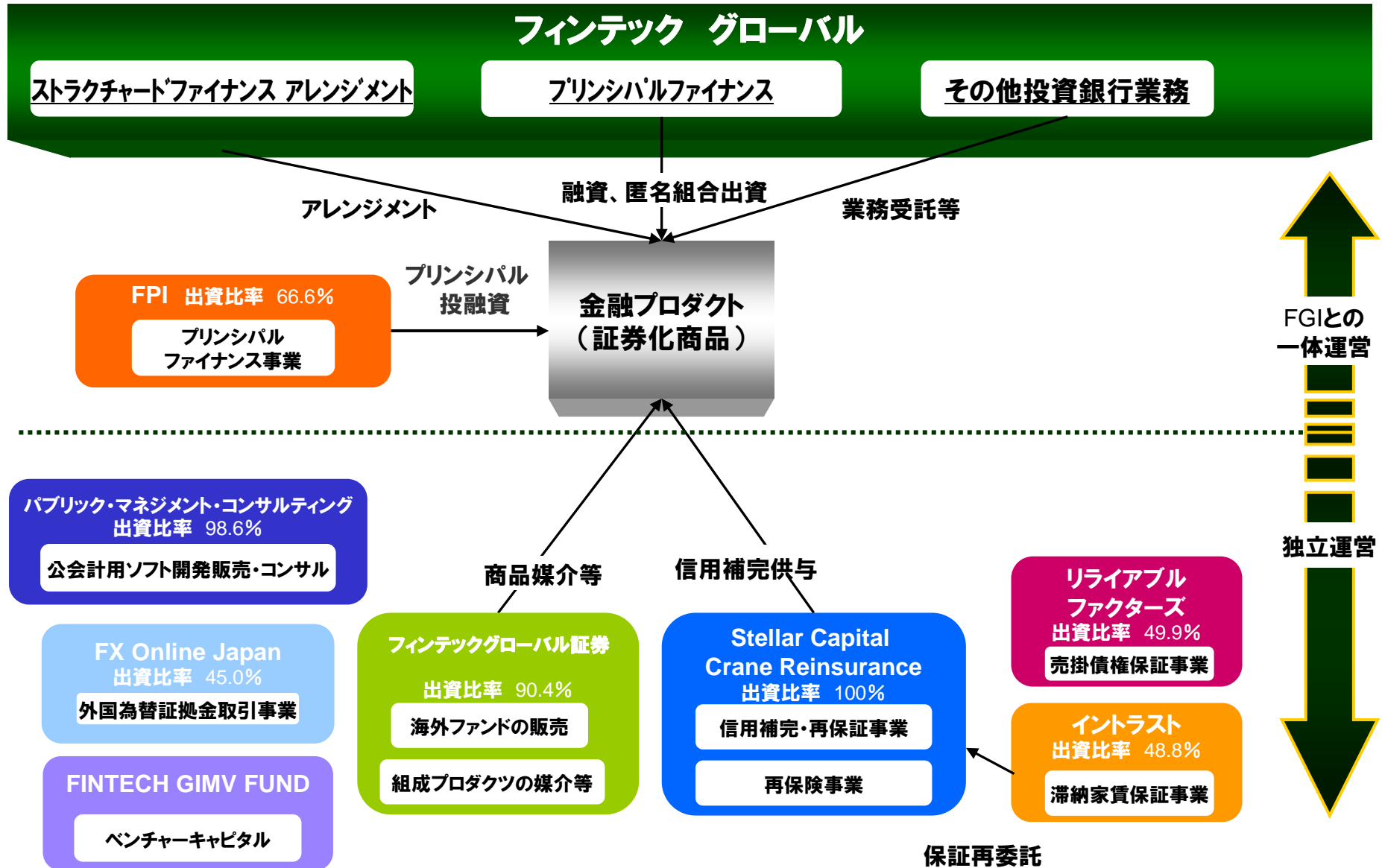
貸倒引当金に関してはBS参照

3 特別損失 530百万円(2Qにて482百万円計上済)

投資損失引当金繰入額 256百万円
投資有価証券評価損 100百万円
子会社整理に伴う投資有価証券売却損 68百万円

補足資料

FGIグループ関連図



参考資料 当社アレンジメント案件組成総額 金融機関別投融资累計

(単位: 百万円)

	05年9月期		06年9月期		07年9月期		08年9月期	
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	第3四半期
信託銀行	45,134	62,974	91,206	108,701	132,036	143,836	163,736	163,736
都市銀行	34,180	69,554	96,381	161,143	200,253	205,653	219,018	219,018
地方銀行	2,189	5,818	11,037	14,597	14,597	14,597	15,247	15,247
FGI	3,574	10,100	45,891	61,519	83,584	105,174	113,344	113,944
その他投資家 (ノンバンク・ 外資系金融機関)	5,427	15,541	29,918	80,279	151,501	194,500	266,510	266,510
合計	90,504	163,987	274,432	426,238	581,971	663,760	777,855	778,455

(単位: 百万円)

